週刊新聞
直言

SOCIALISM＝ソーシアリズム＝社會主義＝

社會主義は土地、資本、其他あらゆる生產機關の公有を主張する者なり

●社會主義別名 相互主義（フランク、パーソン氏の著より）

相互主義は相互扶助を以て社會生活の根本原則となすもの也。

此主義は、二個の個人が共同事業を爲し、若くば家族的生活を爲す時、乃ち先づ其の萌芽を發し、共同福利の原則が都市、町村、國家の全社會生活に適用せらる丶に至りて、初て公平完全の形式を具し、而して更に進みて各人互に愛に依りて結び、兄弟の情を以て共同事業に從事するに至り、即ち社會の各員が皆に協同するに止まらず、全體の幸福の爲に常に自己を犧牲に供するに至れば、此主義は茲に其最高壯嚴の域に達したる也。

而して是に到達する第一歩は、獨占事業の公有と組合事業の獎勵にあり。此方法にして實行せらるれば、生產、分配の諸機關は共有となり、產業上の自治制（若くば民主政治）は行はれ、經濟的平等は得せられ、强大なる協力心は成せらる、茲に至れば、各個人は終に其の知力的、精神的活動が、遙かに肉慾的快樂に優れるを學ばん。而して各個人は唯だ其の最高なる精神的、知力的生活を爲すに足るの程度に於てのみ財を求め、又、個人の最大最高の幸福は他人の幸福を通じて始めて得らるべきを學ばん。彼等は實に言語の上に於て之を學ぶのみに非ず其思想と情緒と亦相伴うて進み、一切の行爲は總てそれに依て支配せらるべし。

茲に於て乎、同胞的愛情と献身的精神と、社會生活の唯一法則となり、相互扶助は其の最後の目標に到達せん。

●慈善主義の彈劾

米國組合敎會傳道會社に於けるロックフェラアの寄附金拒絕問題は、今や日本にも影響して、慈善業者の間に多少の波瀾を惹起したるもの丶如し。

慈善業者が寄附者の意思に依りて其の寄附金の受否を決定せんことは、彼等に取りて一個の難題なるに相違なき也、彼等の事業は元と高向なる道德を基礎として創始せらる、然れ共彼等の心が一び事業の經營其物に多忙なるの時は、彼等の眼は唯だ寄附金其物に眩惑して、復た寄附者の意思と動機とを問ふの暇なき也、彼等は事業の存立其物の爲めに「惡錢」をも見棄つること能はざる也、唯だ「惡錢」は「惡錢」として受納することは、彼等もサスがに赤面せざるを得ず、誠に必要は智識の母なり、爰に於てか彼等は一個の方便を案出して何等明白の惡錢と雖も忌憚なく受納するの道を開けり「惡錢の聖化」即ち是れ也、慈善事業家皆曰く何等の惡錢なりとも一旦我等の手を經れば皆な淨財と化すと、然れ共彼等も尚ほ全然寄附者の意思を閑却すること能はず、故に彼等は又た辯じて曰く、假令非道の餘財なりとも、其人一旦悔悟せば復た既往の罪を問ふを要せずと、彼等は此の如くにして僅に安心を外裝す、故に彼等慈善業者の手に入り來る餘財は、皆な「悔悟」の證據として受け入れらる、然れ共寄附者にありては決して悔悟の結果に非ずして、却て非道の集財に對する世上の攻擊を綏ふする最好最適の惡手段たること、是れ滔々たる目前の事實也、ロックフェラアの寄附金に對する米國傳道會社の拒絕問題は、豈に現代社會の根本に對する慈善業者の醒覺に非ずや。

之を日本の事實に徵するに、前年足尾鑛毒問題の囂々として社會民心を動かすや、鑛山主古河市兵衞は耶蘇敎徒の手に經營せらる丶三四の慈善事業（出獄人保護、家庭學校、育兒院等）に向て倉皇として若干の寄附金を爲せり、是れ當時鑛毒民救濟を叫號奔走せる有志中に多くの耶蘇敎徒を有したれば也、彼等慈善業者は孤疑逡巡しつ丶、遂に速に之を受け納めたり而して皆な之を辯じて曰く、古河は不正に集財したるならん、然れ共彼の心が慈善事業に注がれたるは則ち悔悟の端緖也と、斯くて彼等慈善事業者の中には耶蘇敎徒の間を奔走して、鑛毒地救濟運動より遠ざからしむべく努力したる者さへありき、夫れ寄附者の心既に明白に最大奸譎を暴露し、受寄者の心亦た明了に最大卑劣を表白すること此の如し、悔悟何處に在りや、惡錢の淨化何處に在りや。

大倉喜八郎は商業學校を建設せり、平沼專藏は貧民學校を創立せり、惡錢者流が學校及び慈善事業への寄附は今や一般の流行となれり、幼稚にして淺見なる日本の社會は、之を見て一般道心の進歩の徵候となす、彼等はモルガン、カーネギー、ロックフェラア等の名を稱揚したる筆鋒を轉じて、古河、大倉、平沼等の大慈善を稱揚し初めたり、去れば人道違反の理由を以てロックフェラアの寄附行爲が黃金萬能の米國傳道界に非議せられたるの一報は、日本の社會と改良家とに取つて靑天の霹靂たらずんばあらず。

吾人は明言す、今日の慈善事業なる者は多くは資本家制度の手足にして、個人主義の奴隸のみと、資本家の寄附行爲なるものは、悔悟にも發心にも良心の發動にも非ずして、動もすれば、覺醒せんとする社會民心の鼻に、痲醉藥を施すに過ぎず、吾人は半點だも彼等を德とすべきの理由を發見せざる也。

戰爭後に於ける軍人の跋扈を憂ふる者は其人に乏しからず、資本家制度の强烈を加ふべきを慮るもの、尠きは、吾人の寧ろ奇怪とする所也、資本家制度の發達は貧民の增加なり、失業者の增加なり、罪人の增加なり、即ち社會の壞頹なり、而して慈善事業は益々流行し、慈善演藝會は日夜に開催せられん、慈善事業とは必竟此の如きものに過ぎず、日本の識者に告ぐ、何ぞ速に斯かる消極的愚策の徒勞を悟つて、來つて共に積極的經營に一身を献げざる。

●佐渡の俚謠　三十八郎投

◎思うて見さんし察しよいものか板一枚下地獄
◎可愛男は百尋沖に烏賊た取るやら眠るやら
◎バンクヤウ（バンクヤサ）畑に烏賊[illegible]、網の小鯛畑に身をやつす
◎バンクヤウ畑の紐、引かせとしな（二十一に）（註、二十一は情人の年齡）
◎わっし縄帶、腰には矢立、停馬廻りの[illegible]のよさ
◎殿が可愛けりや乘る木まで泣く、濱に漕ぎ來る船を[illegible]
◎己が若い時や酒田まで通た、道の小草も靡せた
◎い、じが遁るな、地獄は世にない夏山だ
◎三番草に殺せた、殿は夏山の木に登せた
◎ばら〳〵と一雨ほしや、殿の[illegible]水ほどとおほど
◎[illegible]の[illegible]、名主の嗚ら、[illegible]つ[illegible]秋[illegible]月
◎出もせぬ、むけぬ、これが[illegible]り[illegible]お[illegible]にに
◎こんこらこんとこづけ、底に茶碗は伏せおかぬ
◎夢ついて馴染んだ、なじみたが來い夢つきに
◎四十だ〳〵と今朝まで思た、卅九だものまだ花だ
◎三月食はでも三年着でも、殿に着せたい紗の羽織
◎おろ〳〵や船やア、千樽來と儲ふ、小屋長三郎さん
◎二十二三の女の聲で、本使本行衆の宿アどこか（註、小屋長三郎は羅奉行の名）
◎柿の四つ割三つまで喰た、跡の一つが氣に掛る
（出張官吏の淫行例へば芳川内相の如きん歟（ある））
◎こわしたかこわせ、踊や三人でも止めはせぬ
◎金があるとて高慢ふるな、佐渡…や[illegible]の霧になる
◎人工でりや細る、二章[illegible]はりか三[illegible]はる（人工と云ふは奴隸に等しき鑛山の勞働者、多くは四五年の中に肺を病み、之を山[illegible]りと云ふとかや）

THE CHOKUGEN.
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALISTS.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the Heiminsha, Tokyo.
Vol. II. Tokyo, Jun 25th, 1905. No. 21.

THE COLLECTION OF CAPITAL.

The collection of capital is going on very rapidly even in this country so young in economical conditions. The three spinning companies, Miye, Owari and Nagoya, are said to be amalgamated in near future; in other words the Miye Company is buying up the other two. The two electric light companies, Tokyo and Fukagawa, are also said to be soon amalgamated. The three beer brewery companies, Yebisu, Asahi and Sapporo, are also said to be amalgamated into a large firm with capital of yen 5,000,000. Capitalism in Japan is thus making a progress during the topsy turvy of the war.

STRANGE TERMS OF PEACE.

"*Yorozu Choho*", one of the most popular papers in this country, says as follows in its English column under the heading of "*The Terms of peace*"

"We should, however, like to offer a suggestion to the Government concerning the matter, and if what we suggest is not included in the Government's programme, we hope that it will be adopted. It is this: Russia should be made to promise to give her people complete liberty of speech and press, and to convoke a national assembly. Such a demand may sound strange to most people, but we think that if it is made by Japan and accepted by Russia, it will realize our object of the war. We entered upon the war with Russia not with any selfish motive, but in the interest of the peace of the world."

Of course such a demand sounds very strange to us. Is it suitable for Japan where the liberty of speech and press is utterly lowered as plainly shown in the persecution of the socialists, to make a demand for Russia "to give people complete liberty of speech and press"? Is it again suitable for Japan where the Diet is merely a tool of the government and a representative of bourgeoisie a natural result of the limited suffrage,—to make a demand for Russia "to convoke a national assembly"? Such a suggestion as appeared in our contemporary, we are ashamed to say, is only a hypocritical expression, common to our journalists.

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

（平民社電話　本局三三六二番）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○經濟學協會の演説

去十七日富士見軒に開かれたる經濟學協會の例會に於て、ニコライ、ラッセル氏の面白き演説あり、氏は元と露國人にして今は米國に歸化し、布哇共和政府に上院議長たりし事あり、今回の來遊は、米國なる露西亞人自由協會の代表者として露國俘虜に書籍新聞等を分配し、大いに自由思想を鼓吹せんが爲なりとぞ、『時事』と『日々』とに依り、左に其演説の要領を記す

△近世社會學及び經濟學研究の結果、人類進歩の根本的動力は專ら發見と發明とに因ること證明せられたり、即ち諸種の發見發明に因りて、吾人は漸く自然力を役役するの度を増せり、而も斯る長足の進歩も有望の未來に對しては尚ほ極めて幼稚の状態に在りと云ふべく、人類の智識は更に一層の大發展をなすべきや必せり

△然れども吾人々類の幸福増進を妨ぐるものは十分の生産力に乏しきが故にあらずして、唯吾人が吾人の生産力を自ら認識せず、徒に多數の人類み飢餓に頻せしむるに在り、即ち自己の購買を求むるの道を失はざらんが爲めに、階級戰に特權等を固執し、富者は愈々富に、而して貧者は愈々窮乏に陥らんとするも也

△各國民が互に世界の富を獨占せんとするは古來の惰態なり、然も吾人の祖先が富を爭ひたるは、日常必要の生活資料を求めんとするに在りて、實に止むを得ざりしなり、然るに現在の吾人が富を爭ふは、必要以上の奢侈と生産超加との爲めに爭ふなり

△而して器械の發明に因り、如何に世界の生産力を増大ならしめたるかは、墺太利のハツカ博士の著「社會發展の法則」に論ずる所に因りて明なるべし

△即ち氏の調査によれば、二千二百萬の全墺國の人民をして必須の物資を得せしむるには、一千〇五十萬ヘクターの耕地と三百萬ヘクターの牧場とを以て足るべく、又各家族が五室を有し、五十年間維持すべき家屋に住するものと假定すれば、其他一切の衣食を辨ずるも、人民は現今の勞働時間（一日十一時間）に於て六十一萬五千人の勞働を以て足れり、此六十一萬五千人は、婦女老幼を除き、其餘の勞働に耐ふべき人口の僅かに一割二分に過ぎず、若し又勞働に耐ふべき五百萬人の墺國男子をして働かしめば一年に僅々卅日と十分の九を以て足る割合なり、假に五百萬人の男子を一年三百日宛働かしむるものとすれば、彼等は現在の勞働時間の八分の一を以て足れりとなす

△斯く觀じ來れば、世界の富は既に餘裕あり、若し十九世紀をして自然征服に發されたりとせば、二十世紀は富に社會的、政治的、再建造の爲めに費されざるべからず、就中富の分配は其尤も重要なる改革ならん、而して吾人は之を欲するも亦欲せざるも、是れ必然の趨勢にして、苟も此大勢に逆はんとするは、恰も赤手を以て洪水を支へんとするの類のみ

△次に此經濟上の重要なる變化は、其勢力決して此に止らず、必ず他に重要の效果を齎らさでならん、即ち現今各國民及び各國家の間に存在する境界は次第に陸夷せらるゝに至らん、其證據とも見るべきは、近來各國に於て一方には外國資本を歡迎し競ふて之が輸入の便を計らんとすると同時に、他方には外國人の勞働を歡迎しつゝあるに非ずや、此くの如くにして世界平等の學術、平等の信條、平等の文學、平等の教育、平等の文明は各國々民の距離を近接せしめ、此に精神上の結合を來し、且つ次第に人類的大家族を形成せんとする傾向を生ぜり、而して日本帝國は實に此世界的同盟の期を早めたるの名譽を有す

最後の一句はラッセル氏のお世辭に過ぎざるべしと雖も、此の演説の大體は明白なる社會主義的思想なり、經濟學協會の人々は如何に之を聞きしやらん、『時事』『日々』は何と思ひて之を載しやらん、吾人は兎に角ラッセル氏に謝せざる可らず

○八島艦以下の喪失

について數日前の『朝日』は實に左の如く記せり

△我が國に於ては殆ど公然の秘密なりしを以て、日本海の大捷後、政府も昨年旅順封鎖中の喪失艦を始めて發表したるに對し、何人も驚愕したる者なかりしならん。しかも喪失は大喪失なりき。初瀬の外に八島を失ひ、吉野の外に高砂を失ひ、一等戰闘艦の三分の一、最良巡洋艦の二分の一は、實に旅順の未だ陷落せざる間に於いて空となる。加ふるに砲艦二隻の喪失あり、又驅逐艦一隻の喪失もあり。旅順に對しては、我々の犠牲の大なると同時に、海軍の損害も亦大なり。

紳士閥の間に於ては或は『公然の秘密』なりしならん、而も多數人民は全く此の大損失を知らざりしなり、然るに、日本海の大勝のどさくさまぎれに、成るべく人目立たず巧みに之を發表し、而して今『公然の秘密』と云ひ、『何人も驚愕したる者なかりしならん』と云ふ、人民は常に斯の如くして欺かれ居るを記せざる可らず

○三麥酒會社合同

惠比須、朝日、札幌の三麥酒會社合同の談起り、惠比須麥酒は土居通夫、阿部市太郎を、朝日麥酒は馬越恭平、大橋新太郎を、札幌麥酒は澁澤榮一、大倉喜八郎を委員として合同の調査を爲さしめつゝありしが、一兩日の合同契約を締結すべく、合同後は資本を五百萬圓として更に事業を擴張すべしといふ、吾人の既に幾度か記せし如く、資本合同は自然の勢ひなり、或人は之を名づけて富豪社會主義と云へり、其意蓋し少數富豪の利益の爲に社會主義的生産法を用ふと謂ふに在り、資本を合同して自由競爭を廢し、大仕掛を以て協同生産を爲す、是れ即ち社會主義的なり、今のトラストは實に富豪資本家の爲に社會主義を利用せるものなり、されば今後人民の取るべき方法は唯だ一あり、即ち此のトラストを社會化するに在り、即ち少數富豪の獨占せる利益を社會全體の手に繼承するに在り、今日に於て猶ほ彼の自由競爭の利を説くが如きは時勢に迂なることに甚だしきものにして、自由競爭は最早不可能の事となれり、彼等にして若し今後の經濟主義を定めんと欲せば、唯だ富豪社會主義と民政社會主義との間に於て、二者其一を擇ぶに在るのみ

○富豪の鑛山事業

從來全國に於て鑛山の試掘權を有するもの其數實に六千以上なるも多く投機師の手に歸し居りしが、課税實施の切迫するに從ひ廢業若くは投賣せんとするもの續出せるが、此機を利用せんとて、神戸の富豪小曾根喜一郎氏は工學士藤野兼郎技師樋口六郎等の手を通じて、岩手縣津谷川金鑛區十二萬坪餘買收の運動中なるが、此を手初めとし、見込あるものは總て買收すべしと云ふ（某新聞）、亦是れ富豪獨占の一例也

○眼中眼

△『養老を重しとするは家族制を重しとする東洋に獨存して、他に在りて見ざる美風なり』と『日本人』にあるのを見た、其の同じ日の新聞に、七十二歳の老人が貧を苦にして自殺したといふ雜報を見た△田中正造翁から端書が來た、曰く『昨日より谷中村强奮の大盗來襲す、警官數十人之に附随す、人民[illegible]にナヤミ悲鳴す』△『萬朝報』の英文欄に『平和條件』と題し、『露國は其國民に言論出版の十分なる自由を與へ、且つ國民議會を召集するの約束を爲すべし』と要求せよと書いてあつた、社會黨の新聞や演説を禁止する日本政府にドウしてそんな事が云へるものか、チャンチャラをかしい△伯爵井上氏の内田山の邸に鵜の子が現はれた、實に奇瑞と云ふべしだと或新聞が書いた、年號を改めて瑞鵜と稱したら善からう△北越鐵道會社は今度出札掛及び電信掛を悉く女子にする筈で、越後長岡町に女子鐵道學校といふを設立した△諸新聞は之を見て、女子の職業の範圍が廣まるなどと喜んで居るが、其結果として男子の失業者の増加する事には、まだチットもお氣が付かれぬ△鳥尾得庵、田口卯吉、岸田吟香、山田一郎、野口寧齋、神鞭知常等の名士が相次いで逝去した、此間に世の中が變遷するのだ、進歩して行くのだ。

●夏期遊説の計劃

去年の夏期、西川光二郎君は東海道に於て、木下尚江君は信州地方に於て、其他多くの學生諸君は各其郷里に於て、所在相應じて盛んに遊説を試み、著大なる傳道の功を奏したり、今年又夏期となれり、西川、[illegible]二君は巣鴨に靜臥して無言の傳道に從事せり、他の同人亦此好時機に於て活動する所なかる可らず

●木下尚江君乃ち先づ東北遊説の計劃あり、七月より八月にかけ約三週間の豫定を以て出發せんとす、道順は未だ決定せざれど山形縣に入る事だけは既に約束あり、沿道の同志にして便宜を與へたまふべき諸君は、成るべく至急に御打合せを乞ふ

（金の爲に申す、吾黨の遊説は旅費報酬の多くを要求するものに非ず、只三等汽車賃と宿泊の便宜とあれば足れり）

●編輯雜事

▲『直言』の紙面に就て　その女性的姉妹心を去れよ△同人の手習筆紙たらしむる勿れ△金子喜一氏が肩書を去れよ、敢てそのハーバード大學院が平民社連の名譽にも非ざるべし△枯川生の短篇小説は六號活字にすべし△第二十號の評、殆んど論題なし△右いさゝか苦言を呈す（愛讀者の一人）

▲短篇小説『富の鎖』は都合に依り本號に出來ませんでした次號には多分

▲生産方法の變遷　は第二回にて完結の筈です

▲正誤　前號『雜録管見』の中『月刊スケツチ』の欄に『書に各々』とあるは『書に文に』の誤、其他にも誤植は澤山ありますが、是は又あまりに甚だしいから態と正誤して置きます

●運動基金募集

本月十五日より廿二日迄の受付左の如し

△金貳圓		金澤無名氏
△金二十九錢	神田	某氏
△金壹圓	深北	藤田四郎氏
△金三十五錢	下野	種子謙三氏
△金二十錢	長崎	金子豐吉氏
△金二十錢	安藝	戸井田盛藏氏
△金六十錢	滋賀	秋峰氏
△金壹圓	釧路	竹内治右衛門氏
△金壹圓(第九、十回)	北海	林隆治氏
△金壹圓五錢	京都	宮本繁次郎氏
△金三十五錢		無名氏

小計金八圓〇四錢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界の新聞

○英國社會民主同盟大會

（マンチエスターに於て開會）

英國社會民主同盟の第二十五年會は、四月二十一日より廿三日に亘りて開かれたり。出席者は六十八箇の支部を代表せる七十四人の委員なりき。先づ彼の緊要の社會主義者合同に關しては「アムステルダム大會の決議に基き、社會主義諸團體の統一を勉むべし」とのカーライスル支部の動議に合意し、ロックデール支部の提議したる、勞働代表委員會と合併の件は、十八票に對する五十票の多數を以て否決したり。

△此の問題に就て [illegible]

次にサウスウエストハム支部を代表して●ジョンス及びハーバート・バーロウ兩氏は婦人選擧權法案に關して左の動議を提出せり。曰く、

[illegible]

と、而して此の動議は大多數を以て可決せられたり。此より二三の決議をなして後、幹事の選擧を行ひ、左の諸氏其の選に當れり。

ロゼンスタイン氏……ロンドン市
ウエアノー氏……同市
アーチン氏……バーンレイ支部
ダッツァル氏……ノーザムプトン支部
レヴァス氏……サウザムプトン支部
マークラウン氏……マンチエスター支部
ヒンコクリード氏……グラスゴー支部
ヴァーヂ夫人……クロイドン支部
[illegible]氏……同市
[illegible]氏……同市
[illegible]氏……同市
[illegible]氏……同市

△[illegible]

吾人は本黨の大會に就き、猶ほ詳細なる報道を爲さんことを望むと雖ども、今まで知るを得たるもの唯だ之れのみ、或は再び詳報するを得るならん歟。

●●●●●●●●蘇格土蘭の同盟罷工

英國スコットランドの西部なる、クライド及びグラスゴウに於ける製布職工等は兩方同時に罷工を爲せり。クライドに於ける罷工の原因は、蓋し勞働者が、何時間の賃金を四分一ペニー宛増加せんことを要求したるに在り。

△[illegible]

グラスゴー同盟者の爭ふ所は、一般勞働契約に於ける賃銀と期限とに關するなり。

△[illegible]

而して現在の景況にては、同盟者の勝利に歸すべきに似たりといふ。

●●●●●●●●●●ヴィクトル・ユーゴーの銅像

伊太利羅馬府に建築せられし同銅像は、愈々除幕式を擧行するに至れりと云ふ。之に對して英國「ジャスチース」新聞は曰く、吾人は之に就き、啻に彼の友愛と平和との全き勝利を高雅なる言語を以て宣揚したる大詩人が、最も適當に稱讃せらるゝことを喜ぶのみならず、又た實に之に依て佛蘭西と伊太利との間に良好なる融和の曙光を望み得るに至りし也と。蓋し此の元來兄弟の地位にある兩國は、從來彼のクリスピーや佛蘭西國民主義者等の惡化によりて、互に感情を疎み居りし也。然も今や兩者間の害毒の消え去らんとするは與に賀す可からずや。

●●●●●●●英國諸市會議員選擧

英國社會民主黨及び勞働組合が、四月廿日行はれたる地方選擧に於て得たる市會議員左の如し。

エドモントンに於て七人△[illegible]に於て二人△[illegible]に於て一人△[illegible]に於て三人△[illegible]に於て一人△[illegible]

十七市に於て總計二十三人を出せり。社會黨の運動が比較的穏健なる英國に於て此の可なり有勢なる状を呈す、洵に自然の勢ひと言ふ可き乎。

○●●●●●●●白耳義社會黨大會

白耳義社會黨も四月廿三日に於て、第廿年大會を開けり討論せられし最も重要なる問題は、僧侶派に反對して自由派と同盟すべきや否やの件なりき。大會は該件に就きて、ヴァンデルエルド氏の提案を採用せり。其の提案左の如し。

一方には僧侶派を打破する[illegible]

此の他、勞働組合設立を勸誘するの良策に就き討議せしが、是れより言論と出版とに依て雄大なる傳道を開始せんことを決議せり。

○●●●●●●●シカゴ罷工者同盟罷工

文明諸國の政府間に於て、現時盛に流行しつゝある、勞働者の虐殺は、此度シカゴ罷工者同盟罷工に適用せらる、警察官の短銃長劍の下、一名の即死者と六十餘名の負傷者とを出すに至れり。されば同盟罷工者は益々忿怒して、同盟罷工の擴行を叫びつゝあり。若し此同盟罷工にして、更に一週間の繼續を見ば、シカゴ市は正に饑餓の狀態に陷いるが如くならんと云ふ。如何となれば其時に於て、穀物、菜豆、米、茶、鷄卵、牛酪等は全く盡き、而して地方より之を運搬し來る者なければなり。

○●●●●●●●●伊太利市政に於ける社會黨

近時伊太利リスシー市に於て市會議員の選擧ありし結果は同市に於ける社會黨の勢力の侮るべからざる事を表示せり。即ち總數四十八人の議員中、紳士閥議員僅かに二人なるに對して純社會黨議員十名の選出したり。●アナ勞働新聞報じて曰く、同市前期の選擧に於ては、其の選擧人數僅かに數百人に過ぎざりしが、此度は非常に增加して一萬二千人の多きに至れり。市内居住時期に關して大制限存するに係はらず、投票數の增加し行くは社會黨の爲に甚だ祝すべきなりと。

○●●●●●露帝と國民議會

聯合地方議會の委員[illegible]

○●●●●●●●●北米合衆國坑夫大會

同國坑夫の西部同盟の第十三年の大會は、五月廿二日よりユタ一洲サルト、レーキ市に於て開かれたる筈なり。猶ほ遠からず、詳報來る可し。

●火の柱

孤劍

[illegible]

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

●生産方法の變遷

[illegible]氏原著　村田生譯

（三）奴隷制の出現

然るに奴隷制の出現以來、共産制は自然的消滅に歸するに至れり。蓋し奴隷は最も古き財産制の一にして、其の起源は個人に屬するよりも寧ろ一種族全體に屬したるもの、如し。而して奴隷制共産も亦た市場、貿易上の原因に依りて發生したるもの、如し。

△[illegible]

△[illegible]

故に奴隷私有制は、一切の大文明及び古代の所謂民主政治の經濟的基礎たりし也。此の奴隷制と共に富は急速力を以て個人の手中に集積せられたり。

△種族内に於ける共同生産物の交換は止みて、個人間の自由交換は起れり。[illegible]今は市場に送り出さるべき一列の商品となれり。[illegible]

△生産者が同族と共に其の生産物を使用するの樂みを得ず、他の産物と交換せんが爲に之を手放さゞるを得ざるに至る時、彼等は自己の生産物に對して既に全く其の權力を失へり。彼等は最早その如何に成行くべきかを知らざるなり。而して斯くの如く、生産物が彼等の手中を離れたる時は、即ち、彼等生産者を凌奪し壓迫するの利器と爲りたりしなり。

交換の爲に貨物を生産すると同時に、個人の利殖の爲にする耕作は始まれり。而て之に次で土地の個人私有は起れり。之と同時に金錢なる者も亦た從つて行はるゝに至れり。

△此の金錢なる者は實に經濟上及び社會上の一新勢力にして、人の始めて之を發明するや、[illegible]其の將來の魔力を想ふ事なかりしが、幾多の[illegible]經驗の後、程なく彼等は其の普遍なる威力を覺知し、全社會も其の王位の下に拜伏せざるを得ざるを見たり。古代文明の中心たる大都市に於ては、此の金力は常に最も殘忍暴戻なる發現を爲し、其人民の意志感情の如何に關せず常に甚だしく之を驅使したり。

單に奴隷制のみならば、其の奴隷の上に共産制（乃至半共産制）を維持するも必ずしも難きに非ず。

△現今に於ても其例あり、奴隷は元と其の種族の劣等分子たりし者にして、[illegible]血族制と[illegible]とは依然として存在せり。

然るに、交換法と金錢との發生するや、破壞は直ちに之に從つて起れり。私有財産、富の集積、更に多大の富を得んが爲の富の使用、是れ必然の進路なり。次で種々の方面に於ける勞働の分業は起り來り、農業、工業、商業、船舶業等の強固なる階級を結成する場合多し。實に此の金錢と貿易とは、古代の保守的なる諸制度の間を押わけて、猛烈に其歩を進めたり。

△但し其の進行は稍ほ頗る遲々たりしもの、如し。共産制に代りて起りたる個人生産は、數多の奴隷を[illegible]大勢力を擁せる分家と多大なる富の集積とを以て、一層完成せる方法を維持し、彼の人比儕の奴隷生産が、數百年間その家族の一部として使用しながら、[illegible]の如き發達の史蹟は何處に行くも[illegible]に對抗したり。而して[illegible]

△先づ茲に或る數種族の一部落ありとせんに、其の團集の中心は決して地理の關係に依るに非ず、只其の血族の關係に依り、土地所有の關係に在るに非ず、[illegible]密接なる結合を爲せり。是れ彼のモルガン氏の研究の結果なり。

△然るに、斯の如き一部落が漸次に其勢力を増し、他の地方に於ける不斷戰鬪の状態に在ると異なり、茲に安全平和の得らるゝに至れば、元來の同種族以外なる幾多の人民が續々として此の部落に來り投ずるに至る。それと同時に共産制は破れて私有財産制起る。富、貿易、及び商業は大いに發達す。斯くて血族的關係なき人口の増加するに連れ、元來の舊家は茲に貴族と爲りて高きに居り、其下に諸種の階級を生ずるに至る。

△而して血族的關係と財産的關係とは自然此間に於て相反目し、財産と地方とに基ける革命的思想が、遂に血族的思想に對して勝を制するに至る。斯くて共有地に於ける個人勞働と爲り、其の産物の個人私有と爲り、遂に土地其物の私有となれるは前に云へるが如し。

△奴隷制は更に近隣諸族種との爭鬪に依りて擴大せられたり。戰勝者しくば同盟の結果として、奴隷制は一層有力なる生産法と爲れり。戰勝更に多ければ奴隷制いよ〳〵進み、交換と金錢とは最大の勢力を揮ひ、階級は固定して一般に認識せらるゝに至る。但し稍は自由勞働は奴隷生産と相並びて存在したり。

之と同時に金錢貸借の大問題は起れり。土地財産の私有者にして一時何等かの必要に迫られ、債主の哀を乞ふに至る事あり。此の債主は即ち近世の黄金王（即ち資本家）の祖先にして、當時多くは商人の類たり。而して彼等は新時代の革命分子に屬するが故に、舊社會と何等の親密の關係を有せず、從つて其の負債者に對して殘虐を極めたり。負債者が苛酷なる債主に苦めらるゝの事實は、古代史の滿載する所に非ずや。而して人道は曾て此の問題に容喙せず、悲慘なる階級鬪爭は永續せられたり。國家若しくば社會は（當時其の關係猶は未だ混沌たりしと雖も）、其の頻繁なる流血と之に伴ふ大破壞とを防遏せんが爲め、常に負債者の側に干渉するの止むなきに至れり。

△古代の金貸業は實に無道を極めたるものにして、其の前時代の血族制及び共産制と正反對なる惡行たり。されば時や、後れたる初期の基督教會の如きも猶ほ痛く之を攻撃せり。然るに經濟進化の殘虐は猶ほ天然の殘虐の如く、恐るべきものあり。そは決して人間の感情、欲望等に頓着するものに非ず。そは全然、人間の道德を無視し、宗教を容るゝの餘地を有せず。

△經濟は到底、精神に優るものなり。征服せよ、然らずんば誅罰せられよ。主人たれ、然らずんば奴隷たれ。汝の情緒も、汝の精神も、空しく汝の腹に從屬するものに非ずや。後者先たされずんば前者も亦働く能はざるべし。個人も社會も、其の物質的基礎が十分に堅められてこそ、高尚なる智德の發展も出來得るなれ。

故に奴隷制も亦た人間向上の止むを得ざる一段階にして、負債者が債主に屈服せるの一事も亦、同じく是れ前時代の自然の結果たると共に、後時代の準備たるに外ならず。

●無慾なる小兒

『セ、ヤング、ソーシアリスト』といふ、子供の爲め社會主義の雜誌が一部平民社にありますが、其の第一頁にエルチー、ヘーツといふ少年の寫眞が載つてゐる。此のヘーツは今年十五歳で、或工場の勞働者で、そして英國ハリファックスの社會主義日曜學校の生徒である。或時此の日曜學校で、最も善き生徒一人を選擧して其寫眞を此の雜誌に載せようと云ふ事になつた。處が何を標準にして最も善き生徒を選ぶかと云ふ事が問題になつて、色々議論の末、遂に最も『無慾』（アンセルフイッシュネス）なる者を選ぶ事に決した。そして此のヘーツが大多數を以て當選した。學問に依つたのでもなく、才藝に依つたのでもなく、只だ自分勝手な事をせずに、いつも謙遜で人の爲に善く親切な事をすると云ふので選ばれたのだから、此のヘーツの人品が實に床しく思はれる。『無慾』は實に社會主義者第一の德義である。無慾の上に築かれた學校や、團體や、社會は、岩の上に築かれた如くに安全であるのだ。

▲挿畫の説明　是れは『良人の自白』中篇の口繪で、餘り美しいから茲に轉載しました、『良人の自白』中篇はいよ〳〵七月一日より發賣いたします、委しくは別項廣告にて御承知を乞ふ

腕は我等が生命なり

某商店の賣場にて　一 [illegible]

あゝこの腕十の指
握るこツのたなごゝろ
揮へば地に人動き
止むれば地に人仆る
腕は我等が生命なり

若草野邊に萌え出で、
地に生命を吸ふ如く
戀も希望も春の花
咲くや小枝に幹に根に
腕は我等が生命なり

親を養ひ子を育て
弱きを助け勵まして
病に老にわづらひに
希望を送り愛を吹く
腕は我等が生命なり

誇るか貴き邸宅に
驕るか白き無爲の腕
あゝ汝が爲めの勞働に
涙は紅き血[illegible]る
腕は我等が生命なり

眞理は汗かはたらきか
朝には朝の脈めぐり
晝には晝の脈打ちて
色も黒み筋骨の
腕は我等が生命なり

あゝこの腕にくさりして
あゝこの腕に張あて
何の自由ぞ聖信の
[illegible]
腕は我等が生命なり

富のみなしと汗の蔵
大地を握るこの腕を
結ぶに打つに止むるに
などか望みのならざらん
腕は我等が生命なり

○[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜誌管見

▲社會主義の批評（桑田熊藏氏）　桑田氏の名論は前々號の本紙にも之を掲載して、讀者諸君の消閑の具に供したり、今左に重ねて紹介するは特に社會主義に對する批評の一節なり、希くは諸君、紳士閥なる博士の達識なるに吃驚する無からんことを。

▲社會主義の理想に就て [illegible] 此社會は事實となる [illegible] 現はれたと假定 [illegible] 第一の困 [illegible] 新社會の人民 [illegible] 先づ官吏になりたい [illegible] 希望 [illegible] 人民に [illegible] 試驗 [illegible]

[illegible] 博士の說 [illegible]

▲第三に、官業で總て生産をやりまして其生産物 [illegible] 國民 [illegible] 新社會の勞働者は [illegible] 勞働に從事 [illegible] 十年二十年の歲月と [illegible]

▲桑田博士は彼は社會主義と日本の國體との關係を [illegible] 何の束縛を [illegible]

是れ實に法學博士たる桑田熊藏先生の所論なり、社會主義の思想に視突せる者が讀者諸君にして之を一讀せば、豈に一噱を哄ずる無からんや。

▲天鼓（第一號）　本紙の讀者には既に親交ある同日配天氏の經營する月刊雜誌「天鼓」なり、卷頭に曰く「一愛を鼓吹し、天才教育を主張す」と、左に配天氏が文章の一節を掲ぐ

人は水に流るゝものにして、澄める人の性なり、水の性なり、人の性にあらず、[illegible] 其業を進む人の [illegible]

花の如き詩歌文章と、同じく花の如き圖とを載す。望むらくは其の實の猶は多からんことを。

▲文明の鬼（民聲評論）　是れ吾黨の同志秀湖氏の小說なり、最後の一節に曰く、[illegible] 明快なる論に提げて少しも調和を許さない、社會派の一派に、眞率熱烈な一個の青年が現はれた。其人の肇、其人の財 [illegible] 此小說は實に其黑、歷史を描けるものなり [illegible] の前途に鑑み、又如何に前途の希望を有するかを見るに足る。

科學の進步何する者ぞ

（紳士閥は學問の敵なり）

山口孤劍

ポール、ラフワギユー氏其著「社會主義と知識」に叫んで曰く。

アルガンドや、カル [illegible] 空氣の [illegible] 發明し [illegible] 電氣燈に發見せられたり、而して科學の [illegible] 勞働階級に何等の利益を持來せしや [illegible] 勞働者には之を [illegible] 勞働者は家族の一塊には [illegible] 資本家 [illegible] 學の工業的使用は多數人民をして [illegible] 供すべく工匠をして才能を刺激せしむるのみ [illegible]

と、誰れかいふ十九世紀の科學が人間の勞力を省減し、人間の幸福を增進せしめたりと、トルストイ翁が「現時の奴隸」の冒頭に深刻なる筆に描寫せられたるクルツク停車場に終宵まどろまず四十餘時間の長きを鐵道貨物の運搬に從ふ [illegible] の二百五十名の勞働者は、科學の恩澤を破り、文明の寵光に浴せるものなる乎、昔者は [illegible] 歌ひて曰く「日出でゝ出で、日入りて息ふ」と、[illegible] なる工場の鐵砲に [illegible] として耳を傾く [illegible] に和し夜を以て日に次ぐ、之れ十九世紀文明の賜なる乎、綺なす葡萄酒は勞働者の血を肥さゝる也、光輝燦たる金剛石は勞働者の饑を救はざる也、新發明といひ新器械といふ、彼の紳士閥の賦者と逸樂の器具を作り、其の權力をいやますます助長せしむるのみ、勞働者の鶴嘴は依然として重く、たつきの煙は依然として細し、「科學の進步」勞働階級に何の交涉あらんや。

而も之れ科學者の罪なる乎、一代の迷想を打破し、萬有の眞理を發揚し、宇宙を調和し、天人を連接せしむべき大慈大悲なる科學者の罪なる乎、あらず、彼等寧ろ憐れむべき地位にあり、科學者亦今日の社會にありて「賃銀奴隸」たるを免るゝ能はず、左の言は、「社會主義と知識」に叫ぶ所のものなり。

希臘神話に謂れたる [illegible] ダスが、あらゆるものを黃金に變化せずんば已まざるが如く、資本家階級は智識才幹も貨物と見做し、黃金の [illegible] に歸せしめて、化學者も、機關師も、ラテン語教授も、[illegible] 評價して招致し來る。…… 彼の權力階級の知識 [illegible] 的勞働者を肉體的勞働者よりも尊敬する如く見ゆると雖も、それは封建諸侯が「人民」を所有物とせしが如く、彼が「奴隸」としての財產たる知識を所有品とせるを知らざれば也。此の世紀に於ける發明家の [illegible] は、資本家に依りて掠奪せられたる悲哀なる [illegible] 物語なり。

羅馬の當時にありては、奴隸を市に賣買するに、哲學、科學、音樂、希臘語など學び得たる奴隸は、眼底一丁字なき奴隸よりも高價なりしと聞けりしが、今「レーボアリーダー」を讀み、歐米に於ける富豪に依りて設立せられし私立大學に於て富豪が學校教授に拂ふ給料よりも、自家の料理人に拂ふ給料の遙に多額なるを見て、余は學問の爲に泣かざるをえざりき、見よ、いかに科學者、發明家が [illegible] 落さるゝ悲慘なる運命に弄るゝとよ。

▲巴里に於て窮死したる一化學者、彼は堤防と鐵石に依て困厄せられつゝある石炭と沙金の鑛山を二つながら利用すべき道路を發見して、炭坑の株主と鐵道の株主に數千フランクの利益を博せしめたるに、彼は何等の報酬をも受くることなく、其の死せし時の如き極度の貧苦 [illegible]（「社會主義と智識」より摘載）

▲人力車發明人和泉要助外二氏に、紳士閥の代表者なる帝國議會に於て年金給與の案を否決せられ、貧困なる餘生を送りたれり

▲日本燐寸製造の祖清水誠氏は其の晚年に於て乞食より淺ましき生活を送り、[illegible] 路傍に窮死せり

「一個の相撲も十粒の山椒も大豚の前には貴賤なし」と、我れ之れを佛氏に聞く、あゝ神と人との中保者なる絕代の天才も紳士閥の前には一個の靴にだも若かざる乎

Woman was a slave before the slave existed.

(Bebel)

婦人は奴隸存在以前に於て既に奴隸なりき（ベーベル婦人論より）

東西南北より

▲伊豫の高山　[illegible]

▲新宮の同盟罷工　[illegible]（朝日新聞）

▲海員社會にも　私は [illegible]

▲讀者諸君に願く　[illegible]

▲光榮ある左遷の喉　[illegible]

▲砲兵工廠の慘狀　[illegible]

▲山河荒寥、[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人情の獨立

石川旭山

（一）人生の悲劇

親の子を愛し、妻の夫を愛し、兄弟姉妹相愛し、四海同胞を口にするのは、是れ人の性、自然である。然るに、古より芝居、浄瑠璃、小説などに於ては、大抵其人の[illegible]られて、[illegible]悲劇に乘ずといふのが[illegible]なって居る。而して作る者、演ずる者、之を喜となし、見る人、聞く人、亦之を快となすのである。

人生の悲劇は直ちに之に依って左觀されるといふ。何たる矛盾であらう。天下世界に子を持つ親の心は皆一つ、子の可愛さに[illegible]物、喰ふなといふて叫ぶの[illegible]の真なるもの、人情の本然であらうに、「親子と見へたら試みて、死ねといへ」といふ様な格言を説き、而も其言を[illegible]して「武士の家に生れたは、果報か因果かあぢきなや、死ぬるを忠義といふ事は、いつの世からのならはしぞ」と云ひて悲嘆せしめて、其れを美なりとして喜ぶ[illegible]はあるまいか。實に大なる人生の矛盾ではあるまいか。

（二）人生の不幸

是れ實に人生の大問題であります。人生の悲劇が何故に美でありませう。私共は斯の如き美は少しも嬉しく無いと思ひます。成る程、己が人情を忍んで他人の為に犠牲となる人を主觀的に見れば、其美は即ち美でありませう。されど此の美しき犠牲の精神は浮世のかりそめの道に陥いる、社會は眞の罪ではあるまいか。忠信も、愛國も、義理も、恩愛も、元來人情の源より流れ出でたる人の道に相違は無い。然るに其れが、本來の道を逸して、[illegible]の横道に流れ入り、遂には本然の人情と衝突するに至るのであります。而して其の虚妄の横道は社會の組織の中にあるのです。即ち人情、本然に背いた[illegible]る社會組織の中にあるのです。彼の封建制度の下に於て、忠君[illegible]の人情を束縛し、[illegible]制度の下に於て、富の[illegible]人情を[illegible]するといふ如きは、[illegible]き事實であります。

私共は彼の「千代萩」を見て、決して單純なる美的快情のみを惹起すことは出來ない。寧ろ其の社會の罪惡を憤らずには居られないのであります。若し社會組織が完全になったなら、人情は必ず滿足自由を得て、人情の衝突より生ずる悲劇は消滅せねばならぬ。[illegible]其時になりて、假令人生に[illegible]所の悲劇は[illegible]ることも、それは決して悲しむべき悲劇に非ずして、却て喜ぶべき悲劇となるのであります。何となれば、其の悲劇は實に天の命ずる悲劇であるからです。若し夫れ此に到れば、其の悲劇の美は矛盾無くして眞理と一致し、其の美の[illegible]の世に罪惡の潜むことと無くして、徹頭徹尾美となるのです。即ち人生の矛盾といふものは根絶するのであります。

（三）人道と人情

世に、人道を說く人が多くありますが、併し人道は人情の上に立ちて初めて成立するものであります。否、人道は即ち人情其ものを開道に發揮する法則ではあるまいか。されば世の人道を謂ふものは、ドウしても此の人情を束縛する社會組織と戰はずには居られますまい。

世に貞操を論ずる者がありますが、併し、貞操を論ずる前に、先づ戀愛の自由を論ずるの必要なることを忘れてはなりますまい。戀愛は人情の華にして、貞操は其果實であります。戀愛の花が自由に咲き得ぬ（少くとも貧者階級に於て）今の社會に向うて、唯だ果實の收穫を望むのは少しく無理ではあるまいか。

（四）人情は人生の力なり

人情の束縛が唯だ一場の悲劇に終るのみならば、左程憂ふべきことではありませぬ。[illegible]人情は人生の力であります。[illegible]束縛[illegible]それだけで[illegible]興亡に關係するのです。[illegible]若し人情は人生の力であります。元氣の衰へ、而して終に其れが腐敗墮落の結果を來すといふことは、古今の歴史が證明する所であります。

[illegible]の青年男女は、[illegible]に元氣が無いといふ。然し乍ら私は、其の元氣無きことを以て單に青年男女の[illegible]に歸するは[illegible]であると思ふ。若し[illegible]彼等をして彼の如く元氣を消沈するに至らしめたの[illegible]社會の罪ではあるまいか。彼等がパンを求むるに故ではあるまいか。彼等は人情の自由獨立を得ざるに、[illegible]自覺する能はずして、遂には自殺をも敢てして其人情の束縛を脱せんとするのではあるまいか。之をも深く察せずして、徒らに青年男女を責めるのは、[illegible]ではなからうか。

（五）結　論

思ふに日露平和の克復後は、益々日本の社會に[illegible]の膨脹を現ずるでしやう。而して其が増々富の獨占となり、富者の傲慢となり、平民心の増長となり、貧者の墮落となるのは火を睹るが如く明かであります。果して然らば其時に於ける人情の束縛は、外には富の壓制となりて來り、内には虚榮の迷となりて來るでしやう。されば此の時に當りては、世の宗教家、教育家等と、我等社會主義者とは、此の内と外とに相應じて人情の束縛を打破するに力を盡さねばなるまいと思います。

天涯偶語

在米國　噫　穴生

[illegible]

△[illegible]勞働者は之を[illegible]道にる船夫上の如く、而して資本家は絶えず此の船舶を[illegible]りつゝある乎、勞働たり、盖し彼等資本家は只だ勞力が[illegible]、辛苦の果實を喝むとのみ知りて自らは何等の生産をも為す能はざる也。[illegible]社會外に放つには[illegible]此[illegible]の目的は非ざる乎。

△耶蘇の徒よ、[illegible]不和を說き、西洋[illegible]を說き、而も汝等の[illegible]平民の代表者として[illegible]の杯を[illegible]りたる[illegible]。而して現在に於ても尚ほ汝等は多くの醜き兄弟、貧しき姉妹を迫害して日々十字架に附けつゝ、強き者、權力ある者、富める者の前に叩頭して讃美を捧げつゝあるにあらずや。

△沙翁、ミルトン、ダンテ、シルレル、アニソン、キップリング、此等詩人の關文字に依りて吾々平民は果して幾何の慰藉を得たる乎。プラトー、アリストートル、スピノザ、カント、ヘーゲル、スペンサー、此等哲學者の小理屈の為めに吾々平民は果して幾何の安心を得たる乎。ニュートン、ワクト、スチブンソン、フランクリン、エヂソン、此等科學者の發明は果して幾何の滿足と愉快とを吾々平民の生活と境遇の上に與へたりしぞ。

△彼の詩人と學者の殆ど總ては、貴族王侯の玩弄物、[illegible]の寄生蟲なりし也。即ち一首にして掩へば、彼等は[illegible]的詩人、貴族的詩人、戀愛的詩人、雪月花詩人、女郎文學者にてありけるのみ也。

△又彼の哲學者科學者の多くは、空理空論を弄び、怪奇荒唐の説に[illegible]只管に權力階級に阿附して自己の地位名譽を求むるの外何の考もなかりし一種の衒學者寄生蟲乎者[illegible]

△所謂現在の社會組織を此の儘にして置いては、詩歌も無用也、哲學も無用也、藝術も無安也、宗教家の[illegible]科學者の發明も畢竟は徒勞也。

無我苑訪問の記

枯川生

▲[illegible]

[illegible]伊藤君は其外の[illegible]て居るの處、何となく[illegible]である。

▲無我苑同人は此家で何をして居るかと云ふに、先づ「無我の愛」といふ月刊の小雜誌を發行して居る。毎日曜日には「無我の愛」の講話をやる、チョイと面白い文句を書いた、一枚刷の小い廣告を[illegible]聽いてある、又毎月午後には[illegible]の人に[illegible]無我の愛の[illegible]談をやる、そして夜には[illegible]で讀み書きを教へて居る、要するに教導と感化の傳道事業に其一身を捧げて居るのである。

▲然らば其の「無我の愛」とは何ぞと云ふに、それは絶對他力の信仰から來た一種の祈りで、「一個の自己の運命を全く、他の為に任せ、而して、同時に全力を盡して、他を愛する、之を無我愛の活動といふ。吾人は、久しく、宇宙と自己との本性を究めず、徒らに我執と情欲とを以て、自ら煩悶し來りき、而して、今や、明かに、無我大悟、竟に絶對平安の境を得たり」と云ふて居る。其の自我を抛棄する所、恰かも吾人が個人主義を排斥するに似、其の絶對他力に信頼する所、又恰かも吾人が相互扶助に依らんとするに似て居る。

▲物欲強き吾人には、「絶對平安の境を得たり」といふが如き、餘りに高き響に應ずる力は無い。吾人の實地に伊藤氏等と語って見るに、何の事はない、昔の心學道話を聞いて居る様な心地がした、何にせよ、其の決心、其の生活、其の運動、今の世の改革者中、最も目ざましきもの、一たるに疑ひない、吾人は之に向って十分の尊敬と同情とを寄せるものである。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲九州傳道行商日記（十）　小田頼造
（日向延岡より）

▲六月四日、曇　聞けば下穂北村では吉野君の作つた社會主義的俗謠が歌はるゝとのこと、此れは確に田夫野人の間に社會主義的思想を傳播するに甚だ好い方法であると思ふ。朝、桐山君と伴れて今井[illegible]、木下せい等の諸氏を訪ふた、木下姉は温厚の淑女で而も社會主義の同情者である。こんな山の中でも同姉の如き婦人が居らるゝかと思ふと實に頼もしい。妻町に行商して後一里許り見送られた桐山君と別れて佐土原に歸り、車を引いて夕方富田の宿屋に着いた。▲五日、雨　雨の中を朝十時頃高鍋に着き、宿を定めて午後市中や郊外を行商し、牧師濱田新道、濱田増太郎、黑木鶴藏君等の諸氏及び農學校を訪ふた、濱田氏は親切にも雨中を同道して其知人に僕を紹介して下さつた。前田君は青年[illegible]で社會主義者である。夜は出てゝ、千手七磯氏を訪れた。▲六日、快晴　朝から再び市中を行商し、富利敬治等の諸君を訪ふて[illegible]の[illegible]も甚しい午後二時頃出發した。出立する前に同志社出身の岩崎求治君は僕の來るを見て宿へ來られ、本を買ふて下さつた。[illegible]同[illegible]なる青年[illegible]大なる佐藤[illegible]次郎君に[illegible]論[illegible]人に主義を說いた。此夜は都濃泊り。▲七日、[illegible]都濃の市中を行商し、正午出發した。今日は[illegible]の端午節句で、普通の民家にも鯉だの幟だのが立てゝあるのに、貧家には何んの飾り物もない。貧民に何の罪があるのだ。彼等は[illegible]餅一つも食ふことが出來ないのであらう。噫。午後[illegible]に着き、市中に有志を訪ふたら不在で土地の有志家は大抵祝捷會に行つてるとのことに宿に歸つて久し振りに[illegible]を休めた。宿の[illegible]階から見れば[illegible]日[illegible]には帆船[illegible]靜かに浮き、[illegible]なる海面に映り[illegible]るを見る。こんな時に僕の二兄が出獄したら皆らこの閑でも靜かさし上げたい。今日は途中の[illegible]で百姓らしい人に入門一冊を賣つた計りだ。▲八日、曙後雨　朝[illegible]に[illegible]火の[illegible]一[illegible]ふし[illegible]た、宿の[illegible]、[illegible]等は[illegible]になつたら[illegible]、あらうに。[illegible]を行[illegible]して[illegible]、[illegible]を訪ひ、[illegible]の諸君を[illegible]に[illegible]の[illegible]に泊つた。▲九[illegible]日[illegible]高鍋太郎[illegible]、小[illegible][illegible]に[illegible]した、此地には熱心なる社會主[illegible]教[illegible]氏が居られる[illegible]（[illegible]氏）[illegible]、ないので本も可成りに賣れた。此[illegible]の[illegible]非戰論者であるといふので社會[illegible]日本[illegible]に[illegible]。▲十日、[illegible]午後[illegible]夕[illegible]加[illegible]、[illegible]社會主義的[illegible]を賣つた。

▲[illegible]演説會の[illegible]（[illegible]田）

去る十四日の夜、神田[illegible]町吉田樓に於て社會主義演說會を開けり。[illegible]の[illegible]にて[illegible]も充分行[illegible]とりしため聽衆[illegible]僅かに二十名足らずなりしも、臨監の警吏は例に依りて頗る多かりき。軈て開會の時刻となりたれば、熊谷氏先づ立ちて『此れより開會します、初めに荒畑勝三君』と紹介するや、臨監の更科警部は直ちに立ちて『本會の解散を命じます』と宣告せり。憤慨、激昂、畢竟するに徒勞のみ、吾徒は遂に一言を發するなくして解散せしめられたるなり

△吁々、日本國民に言論の自由ありと思ふ者あらば、そは大なる誤りなり、視よ、吾徒は帝都の眞ン中に於て、實に此くの如き侮辱と壓制とを被むれるに非ずや然れ共、吾徒は徒らに彼の警察官を咎めざるべし、何となれば、此れ皆な、彼の内務大臣芳川某が、關西地方に於て淫賣婦を買ひつゝ、編出せる『新壓法』にして、彼の警官等は、單に此れを遵守せる器具たるに過ぎざればなり。（荒犬生）

▲社會主義研究會（大阪平民社）

六月十五日午後七時半開會、予の講演『階級鬥爭論』の續き、自分の病氣やら母の看病やらで準備が出來なかつた爲め甚だよつかなかつた、高尾君と東京から歸つて來られた大矢君は『社會制に關して』の演說あり、十時過散會した、本社の會合には必ず雨が降るので聽ッ腹が立つけれど仕方がない、△次回は七月一日午後七時半どしどし御來會あれ（赤人）

▲函館平民倶樂部（第九次小集）

六月[illegible]日、[illegible]の[illegible]に集會す、出席者七名、内二名の[illegible]來おありければ、之に對し古[illegible]二三名に代る代る平易なる說明を試み、最後に[illegible]氏の[illegible]話あり、午[illegible]十時散會[illegible]（平民）

▲神戸平民倶樂部（第十例會）

豫定の通り、六月二日の夜、[illegible]永井方にて開く、[illegible]れて[illegible]の[illegible]などを[illegible]ておきましたが當夜は折柄雷雨で、會場の永井君と[illegible]と野花生との三人のみ、種々の雜誌の評などして、十時半に切りあげました（岡犬王）

▲石渓同志會（露北）　中表

一口に[illegible]と言へば、生諸の[illegible]と、[illegible]亡者の[illegible]の如く考へらるゝが、近來、大に秩序的に趣くと共に、正しき社會主義者を[illegible]するに至れるは嬉しい、僕らは新主義に關して[illegible]門戶を[illegible]ふたゞ[illegible]ないが、[illegible]小門作[illegible]大なる努力の代[illegible]は[illegible]力の[illegible]と思ふのである

▲佃島同志茶話會（第一回）

六月十八日午後七時より京橋區新佃豆腐屋（橫井）樓上に同會、會する者十六名、來會者の[illegible]に[illegible]ありて[illegible]、今後は毎月十五日を以て例會を開くべきことを決議し、[illegible]十時散會した、風雨なりしにも係らず[illegible]外の盛會で、警官も御臨監されました、（[illegible]生）

▲門司市及び附近の同志諸君へ

同志の[illegible]を[illegible]したいですが、御同[illegible]の方は吾々二人の内へ[illegible]を願ひます

小倉市田町[illegible]　村　千[illegible]助
門司市門司[illegible]下本[illegible]方　吉　野　省　一

▲某同志社解散

去る五月二十六日[illegible]の社員會合し、左の決議をなす
△本日限り[illegible]同志會を解散す　（山中生）

平民社より

▲梅雨の時節、獄中には嘸鬱陶敷事と思ひやられます。

▲共產黨宣言事件公判は七月三日になりました。

▲社中いづれも無事。語學の稽古も時に冷熱はありますが、兎にかく皆少しづゝやつて居ります。小生の獨逸語など迚も物になりそうには思はれませぬが、それでも、アル、デス、デム、デンなどやつて居りますと、此の將に老い去らんとする頭を、猶は幾許か少年時代の狀態に引戻すの効があるかと思ひます。

▲去廿三日、菅谷いわ子さんを小石川に訪問しましたいわ子さんは木下尚江君の妹君で、數年前良人に死にわかれ、今年五歳の澄ちやんといふを連れて、二人さびしく住んで居らるゝ。然しながら其の寂しい生活の間に將來の事業の萌が孕まれて居るのでは無いかと予は思ふた。其日いわ子さんは（Christ as a Socialist）といふ英文の小說を讀んで居た。

▲原君夫婦及び山口君の經營せる平民舍ミルクホールは、此頃氷店を兼營する事になりました。吾黨は屯田兵の覺悟を以て、到る處に活路を開かねばなりませぬ。

▲熊谷千代三郎君は本社の事務の傍、少しづゝ出版事業をやる事にして、今度手始めに『智識と趣味』といふ小冊子を出しました。是も屯田兵の一つと見るべきでせう。發行所は本鄉區根津宮永町平民書房、委しくは廣告を御覽あれ。

▲深尾韶、野手某の二氏は北海道膽振國虻田郡眞狩村字留壽都八の[illegible]ノボヤエンコロマップと云ふ處に落ちつきました。彼等の屯田事業に就ては、いづれ委しく報ずる時機があらうと思ふ。（以上枯川生）

▲人の心は境遇によつて變るものだと思ひます。自分は小供の時から臆病[illegible]といつて笑はれた位、家でばかり威張つて、よそにゆけば借り猫同樣にすましてゐました。從つて、餘りよそを面白いとも思はず、他人に打とけて甘えてみやうとも思ひませぬでした。ところが此頃では行く所樣に靜かに落つくのです。幸德家を訪づれても、堺田家に遊んでも、又菅谷さん、木下家などにたまに伺つても、歸りを忘れてツヒ泊り込むことになります。小さな垣を設けて威張つてゐるより、いくら面白いかしれませぬ、これも三界に家なしになつたからでしやう、世の中のこと何が幸になるかしれませぬ。堺さんなども御友達の家は御自分の宅のやうに心置きなく面白かつてゐらつしやいます。

▲此間函館の桐野といふ方から、鈴蘭といふ珍らしい草花を送つて下さいました、小い、白い、鈴の樣な花が群がり咲いて、香りが非常に高く、葉は[illegible]の樣でした。此花は米國のシカゴと日本の函館附近との外容易に見られないほど珍らしいもので、米國などでは至極珍重がつて、夏の送り物にするさうです。かやうにわざわざ手數をかけて送つて下さつた御好意を厚く御禮申上ます。

▲昨日また延岡さんの妹樣から、桃色の極うつくしいグミのゼリーを一瓶送つて下さいました。又申合せた樣に、それと同時に同じ金澤の同志本部樣からイチゴのジャムを頂きました。何れも原料から御手製になつたものゝ由。丁度郡になる子女の許に親が心を込めて送りものする樣に思ひなされての事であらうと思へば何とも云ひ知れぬ感に打たれました。（以上ふみ子）

新刊紹介

▲**印度佛教史綱**（境野哲氏著）　本書特に印度に於ける佛教の歷史を說けるを以て印度佛教史綱と謂ふ蓋し著者は、佛教が印度、支那、及び日本に於て、各其地理的原因を受けて特殊の發達を遂げたりとなせばなり。筆を釋尊以前の印度宗教に起し、佛陀を說き原始佛教を論じ、佛典結集を序し、更に馬鳴、龍樹、世親の諸菩薩論に及び、而して印度に於ける佛教の絕滅に筆を擱けり。說く所、簡約にして而も要領を得たり。若し之を僅々二百頁の小冊に納めて讀者の便を謀れるは、洵に著者の勞を多とすべし。（麻布飯倉町森江書店發行）

▲**修道講話**（多田鼎氏著）　本書は著者が母堂の七年忌の縁によりて、此書を『同行の人々に頒つことゝ』なりたるもの。解脫、佛陀、招喚、直心、現在、奮鬪處世等の諸項に就て說話せり。『この時、學問や倫理など、世の道は、何の力添なも、いたしては、くれませぬ』『然るに何たる幸であらうか、こゝに南無阿彌陀佛の御名が在らせらるゝ』『この三界の道に踏迷して低廉廣大、超勝獨妙なる如來の淨土は、實に私共の、間違なく打擲ふて、往き生れむことを待ちかまへたまふのである、淨土往生は人生の究竟目的である』などの數節を見ば、本書が說かんとする所自ら明かならん（正價二十三錢　本鄉四丁目文明堂）

▲世界之帝王（太陽臨時增刊）	日本橋本町博文館
▲中央農事報（六十三）	芝公園全國農事會
▲基督教世界（一一三七）	大阪北區中之島其社
▲向上主義（七）	本鄉丸山福山町久友社
▲人性（一の三）	日本橋通二丁目裳華房
▲手紙雜誌（二の三）	麴町有樂町有樂社
▲家庭雜誌（三の六）	芝新堀町由分社
▲國學院雜誌（十一の六）	麴町區飯田町國學院
▲新公論（廿の六）	本鄉四丁目其社
▲慶應義塾學報（九一）	芝三田綱町同發行所
▲通俗宗教談（三一）	京橋築地二丁目同發行所
▲[illegible]哲學（十二の六）	小石川原町哲學館
▲[illegible]（二六七）	牛込[illegible]新町其社
▲[illegible]（四）	千葉縣[illegible]東中學校内其社
▲[illegible]（十八の六）	[illegible]社
▲教界時事（五六）	麴町區上二番町其社
▲文庫（二）	本鄉西片町内外出版協會
▲近畿評論（七六）	京都上京[illegible]町三條上ル其社
▲九州家畜雜誌（一二）	熊本玉名郡[illegible]水村字川島其社
▲家庭週報（廿五）	小石川目白臺櫻楓會
▲新曙光（五）	北豐島郡日暮里村北友社
▲曙光（六）	長野縣小縣郡[illegible]中信同好社
▲帝國文學（十一の六）	京橋區[illegible]株式會社

木下尚江著　價卅五錢（郵稅不要）

小說　良人の自白　（中篇）

いよいよ七月一日發行

無愛情の結婚に導火されたる現代の破裂を見よ、是れ人の罪に非ず社會制度の罪也、著者は後篇に於て人生の原理を說かんが爲に先づ忌憚なく明治社會の眞相を描寫して國民の省慮を促せり、大膽の文、莊嚴の筆、我文壇未曾有の偉觀たり

發行所　東京市麴町區有樂町三丁目　平民社

●社會主義茶話會

今二十五日午後六時半より京橋新肴町開花亭に開く、會費金十五錢

△此茶話會は、暑中休暇を得て將に故鄉に歸らんとする學生諸君を送るの意を以て、特に發起せられたのです。

△餘興として人の耳目を驚かす程のものが當日偶然に來會の諸君の中から現はれたら嘸面白からうと思ひます。

（附記す、社會主義研究會も、婦人講演も、七、八、兩月の間、休業と致します）

斯波貞吉編（本日發行）

小品千題　知識と趣味

▲定價卅五錢直接讀者に限り郵稅不要▲

科學、哲學、宗教、政事、文學、地理、統計、現代最新の知識は收めて此中に在り、滑稽、諧謔、頓才、諷刺、世界最大の趣味は集めて此中に在り、收集せるもの小品千題、趣味の泉は汲めども涸れず知識の倉は取れども盡きず、曾て是れ萬朝報の『世界各國』欄が數年に亘て載せたるもの、今や更に著者の修選を請ひて一美冊と爲し敢て諸君子日夕の愛玩に供す

發兌　東京市根津宮永町三六　平民書房

取次　東京麴町區有樂町三丁目　平民社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

菊池幽芳新作小說

妙な男

鏑木清方畫　表装洋綴彩色銀打込入口繪及挿入美本一冊金六十錢郵稅八錢(新刊)

妙な男は一篇の戯曲的構想より成り多少の喜劇趣味を帯べる頗る奇警の小說なり思ふに單調なる文壇に一異彩を放つものは必らずやこの小說ならん變化縱横にして興味溢るゝが如く始より終まで讀者を魅し去りて手に卷を措く事能はざらしむるの妙あるべし

河井醉茗著作

塔影

[illegible]

菊製クロス綴高雅一冊四十五錢郵稅六錢

[illegible]毎に美く作家の胸は毎に清し

醉茗の詩は妄に技巧を競はず自然に流れ出る泉の聲にして直に人の胸に泌む淡如として自ら伸び渾然玲瓏亦一浮塵を認めず塔影收むるところ五十有一篇最近二三年の作に係る現代の詩調を窺んとする者は又醉茗の作不可逸少くも一家の風を具へて多數青年間に愛誦さるゝは醉茗の詩也

發行元　東京神田區西今川町二　金尾文淵堂

賣捌元　東京堂・上田屋・前川文榮閣・東海堂▲大阪杉本書店▲九州菊竹書店

●創刊第六周年紀念號●

月刊雜誌

新佛教

●七月一日發行の紀念號には　▲定價二十錢郵稅二錢▼

「來世の有無」

について現代の名士一百餘家の解答を募り約百頁の附録として之を附録せり有とするもの無とするもの非有とするもの非無とするものありたゞ一語にして盡せるものあり堂々數十頁の大論文を草せるものあり……嗚呼實にこれ空前の珍品たり試にその解答者を紹介せむか

山路愛山君、加藤弘之君、佐治實然君、志賀重昂君、木下尚江君、忽滑谷快天君、幸田露伴君、石黒忠悳君、前田慧雲君、渡邊國武君、與謝野鐵幹君、建部遯吾君、井上圓了君、留岡幸助君、辰巳小次郎君、島田三郎君、南條文雄君、村上專精君、谷本富君、三島中洲君、三輪田眞佐子君、湯本武比古君、内田周平君、戸水寛人君、棚橋一郎君、富士川游君、海老名彈正君、平井金三君、澤柳政太郎君、中島力造君、島地嘿雷君、根本通明君、外八十餘大家

發行所　東京駒込片町十六　新佛教徒同志會

發賣所　東京小石川原町六　鷄聲堂

境野黄洋先生著

時代宗教

精透の見識拔の筆信仰問題を論じては宗教の眞髓を提げ教理問題を究ては佛教哲學の特色を示す若それ時代の趨勢佛教の革新を論ずるに至ては著者獨得の文字

菊判全一冊　定價四十錢　郵稅金六錢

發行所　東京芝露月町　鴻盟社

賣捌所　前川　其他各書店

印刷　出版

東京築地　株式會社

國光社

電話新橋　二六九三番

特電話　八八番

痳病せうかち根治神劑

快痳丸

本劑は一等軍醫正草刈先生の處方に據り藥劑師田所榮松調製せし者にて輕きは一週間如何なる難症にても一ケ月にて根治せしむる特効保證の神劑なり

價　三日分　十五錢　○十五日分　六十錢
　　七日分　三十錢　●一月分　一圓

發賣　東京市中は即刻配達す●全國無料送達す　神田區皆川町一番地　電話本局三千四十番　一志堂藥局

日本精製糖株式會社
第十九回決算報告
貸借對照表

負債

株金	四、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
諸積立金	六八九、八〇〇・〇〇〇
仕拂手形	一、五五五、五〇〇・〇〇〇
預り金	四一一、九二九・九一三
未拂勘定	一、六〇四、二二八・八九四
職工積立金	七、八〇四・七五三
前季繰越金	一八、二三三・七八四
當半季利益金	五〇九、八一八・九七九
計	八、七九七、三一六・三二三

資產

未拂込株金	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
地所建物機械及什器	二、一四三、一二四・五八〇
原料品、製品、仕掛品及工場用品在高	三、一〇八、三四二・一一〇
原料關税假納金	二三五、四八〇・四六八
氷糖新工場增設假拂	一九六、〇六一・三三〇
有價證券	一、〇〇八、四九九・八〇〇
受取手形	一七三、九二八・〇三〇
假出金	二六〇、九五九・三〇〇
銀行預金	一七七、六三二・二四〇
現金	三、二八八・四二五
計	八、七九七、三一六・三二三

財產目録ハ前記貸借對照表資產部ト同一ニ付略ス

前記利益金を處分すること左の如し

一金五拾萬九千八百拾八圓九拾七錢九厘　當半季利益金

內

一金五萬九百圓　役員賞與金

差引

一金四拾五萬八千九百拾八圓九拾七錢九厘　當半季純益金

一金壹萬八千貳百參拾參圓七拾八錢四厘　前季繰越金

合計金四拾七萬七千百五拾貳圓七拾六錢參厘

內

一金二萬六千圓　法定積立金

一金拾萬圓　機械建物減價積立金

一金拾六萬八千七百五拾圓(年一割五分)　配當金

一金五萬六千貳百五拾圓(年五分)　特別配當金

一金拾貳萬六千百五拾貳圓七拾六錢參厘　後季繰越金

右は明治三十七年十二月一日より明治卅八年五月卅一日迄實際報告前書の通りに御座候也

明治三十八年六月

日本精製糖株式會社

専任取締役　鈴木藤三郎
取締役　吉川長三郎
同　大河内輝剛
同　益田太郎
同　村上太三郎
同　藤田四郎
同　田村武治

右之通リ相違無之候也

監査役　松本福昌
同　武智直道
同　飯田義一

樋口配天編輯

青春

▲一部五錢十二部六十錢　郵稅不要　▲寫眞多々　▲全紙優美案頭

●自然の美に遠ざかり行く人性を呼戻す●迷疑悶ある人來て慰藉と活動を求めよ●天才教育を主張し又青年男女希望の友

發行所　東京下谷區谷中初音町三の卅九　青春社

平民文庫出版廣告

●社會主義入門　平民社同人編　定價十錢
●消費組合の話　石川旭山著　定價十二錢
●地上の理想國　瑞西　安部磯雄著　定價十五錢
●社會民主黨建設者　ラサール　幸德秋水著　定價十五錢
●土地國有論　西川光次郎著　定價十錢
●富の壓制　西川光次郎著　定價十錢
●經濟進化論　田添鐵二著　定價十五錢
●小說　火の柱　木下尚江著　定價卅五錢
●小說　良人の自白　木下尚江著　定價金卅五錢
●革命婦人　平民社同人編　定價十二錢
(以上總べて郵稅を要せず)

五錢本之部(一部價五錢郵稅二錢但二部以上郵稅不要)

●百年後の新社會　堺枯川抄譯
●理想鄕　堺枯川抄譯
●ジョン・バーンス　西川光次郎著

發行所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社

取次所　大阪市中ノ島宗是町田簑橋南詰　大阪平民社

●書籍取次販賣(郵稅無料)

●社會問題解釋法(安部磯雄著)　價一圓廿錢
●廿世紀之怪物　帝國主義(幸德秋水著)　價廿五錢
●百年後の社會(品切)　價六十錢
●小說　勞働問題(堺枯川譯)　價廿五錢
●社會主義概評(島田三郎著)　價三十錢
●社會黨(西川光次郎著)　價十五錢
●產業組合手引(森近運平編)　價二十錢
●青年と生存競爭(安藤[illegible]著)　價二十錢
●家庭の新風味(堺枯川著)　價壹圓
●家庭夜話(同)　價壹圓
●枯川隨筆(同)　價二十錢
●我家の犬猫(同)　價八錢
●トルストイ翁　日露戰爭論(平民社譯)　價八錢

取次所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社　大阪市中の島宗是町田簑橋南詰　大阪平民社

思想界の革命兒　本日生る

無我の愛　第二號

毎月二回(十日廿五日)發行　一部貳錢　一年四十八錢　郵稅不要

▲國民靈性の危機　時評
▼絶對的幸福　本領
▲「新佛教」徒に問ふ　時評
▼文藝小觀　枯山
▲新家庭論　安藤現慶
▼予が信仰の歷程　和田幽玄
▲親鸞聖人の純利他主義　伊藤證信
▼黄昏日記　小桃
▲日本宗教の風土病　時評
▼懺悔　支骨
▲無我苑生活　古川
▼靈の閃　讀者子
▲所謂宗門革新　時評

發行所　東京巣鴨六二五　無我苑

▲本紙定價　一部三錢五厘、廿部前金六十五錢、五十部前金一圓六十錢、郵稅不要
▲廣告料　一行十九字詰三十錢
▲注文　は總べて前金に限る
▲郵券代用　にて御送金の場合は必ず一割增として成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行兼編輯人　原眞一郎
印刷人　山田金市郎
發行所　東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地　直行社

發賣所　東京市麹町區有樂町三丁目　平民社　電話(本)三二六二

印刷所　東京築地二丁目三十二番地　株式會社　國光社　電話新橋特八八、新橋二六九三